

早稲田大学×神田外語大学×筑波大学

TOKYO 2020
教育プログラム
【よろい、ドン!】



1000 Days to Go!

スポーツ・リベラルアーツ講座

➤ 日程

2017年11月18日(土) 13:30~16:30

➤ 場所

早稲田大学 小野記念講堂

➤ 共催

早稲田大学 総長室 オリンピック・パラリンピック事業推進室

神田外語大学 スポーツ通訳ボランティア推進室

筑波大学 オリンピック・パラリンピック総合推進室

高校生・
大学生・一般
先着200名
受講無料

オリジナルグッズ
参加者全員プレゼント






目的

東京2020オリンピック・パラリンピックの1000日前を控える中、スポーツを通じた教育・文化・幅広いグローバル教養とマインドについて理解を深める

内容

講座テーマ

担当講師

13:00-13:20	受付	
13:20-13:30	開講式	
13:35-14:05	早稲田大学におけるオリンピックの歴史と2020年東京大会への取り組み	早稲田大学 理事・スポーツ科学学術院 教授 総長室 オリンピック・パラリンピック事業推進委員会 委員長 村岡 功 
14:10-14:40	東京オリンピック・パラリンピック競技大会が与えるインパクトとレガシー	筑波大学 副学長(教育担当) オリンピック・パラリンピック総合推進室長 清水 諭 
14:45-15:35	【テーマ1】14:45 ~ 15:15 スポーツと言語から学ぶグローバル人材とは	神田外語大学 体育・スポーツセンター 専任講師 ボランティアセンター・スポーツ通訳ボランティア推進室長 2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議 委員 朴 ジョンヨン 
	【テーマ2】15:15 ~ 15:35 TOKYO2020を一緒に創る~ボランティア~	関西外国語大学短期大学部卒、ユタ州立大学留学後、 外資系銀行に就職。12年間勤務する中で、ニューヨーク メロン銀行ヴァイス・プレジデント職を経て、2014年に独立 2016リオ五輪では通訳ボランティアとして活躍 新条 正恵 
15:40-16:30	オリンピック・パラリンピック選手から学ぶ人間力	筑波大学 体育系 准教授 日本オリンピック委員会(JOC)理事 1984年世界柔道選手権金メダル、1988年ソウル五輪銅メダル オリンピック・パラリンピック総合推進室員 山口 香 

申込

- 特設ページ(QRコードまたは下記お問い合わせURL)へアクセスの上、お申し込みください。
- 会場席数に限りがございますので、定員になり次第締め切りさせていただきます。

【お問い合わせ】

スポーツ通訳ボランティア推進室

<http://sports-volunteer.tokyo/>



Messages



早稲田大学
理事/スポーツ科学術院 教授
オリンピック・パラリンピック事業
推進委員会委員長

村岡 功

オリンピック・パラリンピックは、人種・性別・信条・国籍などを越えた世界最大のスポーツイベントの一つであり、世界各地の国・地域から多くの選手、関係者および観客が訪れます。56年振りに東京で開催されるこの機会は、大学の使命である社会貢献を推進し、早稲田大学のプレゼンスを国内外のステークホルダーに強く訴えかける絶好の機会です。

本学としては、トップレベルの競技者養成、コーチ陣等指導者の派遣といった競技的側面への貢献だけではなく、学生ボランティア活動の活性化や各国、競技団体等への施設提供など、大会運営への貢献も積極的に進めるとともに、トレーニング方法の開発や健康医療分野の発展など、大学が有する学術的資源を活用した教育・研究的側面においても参加していくことが望ましいと考えております。また、文化交流・異文化理解・ダイバーシティなどについても、これを契機としてさらなる進展を図るとともに、さらには校友会とも連携し、オールワザでの事業推進を目指します



神田外語大学
スポーツ通訳ボランティア推進室長
体育・スポーツセンター/
ボランティアセンター専任講師

朴 ジョンヨン

オリンピック・パラリンピックやワールドカップで代表されるように、スポーツの国際化・グローバル化は急速に進行しています。スポーツは国籍を問わず、言語・人種・宗教を乗り越え、世界の人々に喜びと感動、そして勇気を与える力を持っています。その意味ではスポーツは世界をつなぐ平和の共通語であり、優れたコミュニケーションツールでもあります。人間は、誰もが運動能力と同様に、言語能力を持って生まれますが、どのような方法でその能力を引き出し、発揮・向上させるかは大きな課題であります。

神田外語大学からは毎年、国内外で開催される国際スポーツ大会・イベントに多くの学生を通訳ボランティアとして送り出しています。参加した学生からは「学んでいる言語以外に、ほかの言語を学びたいという意欲がわいた」、「外国人選手と接し、異文化理解力が深められた」など活動の充実さが窺えます。この経験を通じ、客観的な自己の言語能力に気づき、外国語学習へのモチベーションアップに繋ぎ、グローバル社会で活躍することを願ってやみません。



筑波大学
副学長（教育担当）
/オリンピック・パラリン
ピック総合推進室
室長

清水 諭

近年、社会はグローバル化するともに、人々の個性も多様化しています。様々な個性をもった人々が共生していくには、ダイバーシティの観点から物事を捉え、理解していく必要があります。その点において、スポーツは、国や文化、年齢、性別、障がいを超えて、たくさんの人々が共に楽しむことができる機会を与えてくれます。2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会は、より多くの人がダイバーシティを意識し、よりよい共生社会について考えるチャンスだといえます。

筑波大学では、スポーツ・体育分野と、医学や障害科学、心理学、人文科学などの分野が連携し学際的研究を進めています。キャンパスには117カ国・地域から約2,400名の留学生を受け入れ、グローバルな交流も日常化しています。また、特別支援学校を含む11の附属学校ではインクルーシブ教育を推進するなど、性別、国籍、文化の違い、年齢、障害の有無にかかわらず、人の可能性と多様性を尊重し、学びあえる大学、そして個性と能力発揮ができる社会の形成と実現を目指しています。今後、学生ボランティア教育をさらに推進し、若い力が中心となり大会を成功に導けるように、全学を挙げて協力していきます。

早稲田大学 小野記念講堂 アクセスマップ

